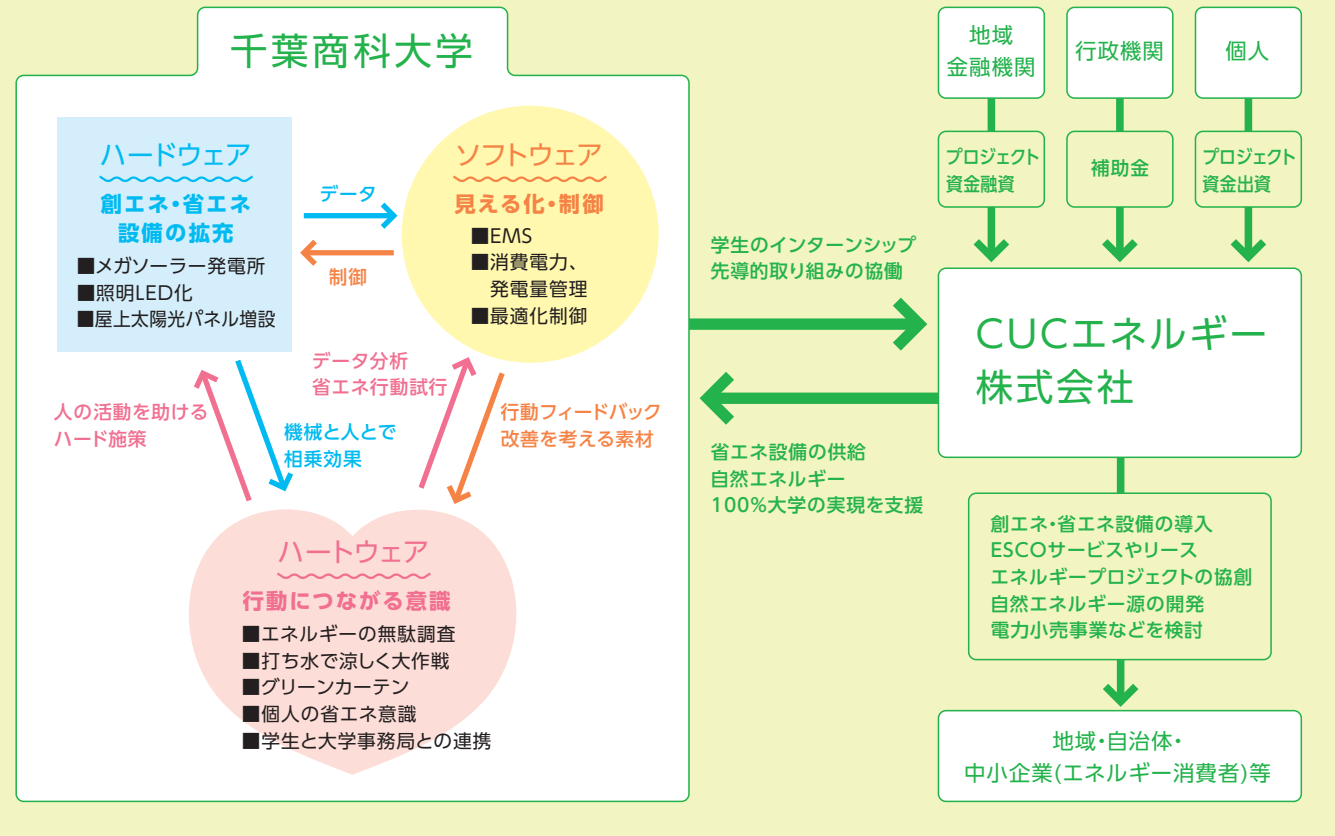


環境目標の実現に向けて、本学がこれまで取り組んできた地球温暖化対策活動を軸として、ハードウェア、ソフトウェア、ハートウェアという3つの柱で、全学的なスキームを展開して取り組んでいます。また、この取り組みを核に、エネルギーの地産地消のモデルとして、地域分散型エネルギー社会の形成を支援することをめざしています。



# 日本初 「自然エネルギー100%大学」!

持続可能な社会づくりに貢献するため、再生可能エネルギーの導入促進と学生による学内省エネ活動の推進を行っています。

## 環境目標

**達成**

2018年度  
千葉商科大学をネットで日本初の「RE100大学」にする。

本学所有のメガソーラー野田発電所等の発電量と千葉商科大学の消費電力量を同量にする。

2023年度  
千葉商科大学をネットで日本初の「自然エネルギー100%大学」にする。

本学所有のメガソーラー野田発電所等の発電量と千葉商科大学の消費エネルギー量を同量にする。



## 学長メッセージ

### 地域分散型エネルギー社会への転換

本学の取り組む「自然エネルギー100%大学」は、再生可能エネルギーだけでカバーできるその実例として、「まず、隼より始めよ」という考えで取り組んでいます。いわばRE100の大学版として、日本国内の大学では初の試みです。私たちの規模のケースをモデルに多くの大学や中小企業が、事業所単位で目標を立て、RE100をめざし、エネルギー地産地消型の社会へ転換されれば、雇用も生まれ、産業構造も変わります。民間の力、商いの力で、地域分散型のエネルギーを広げ、持続可能な社会へと変えていくことこそが日本の将来を切り拓くことになると私は考えます。

千葉商科大学  
学長 原科幸彦



### PROFILE

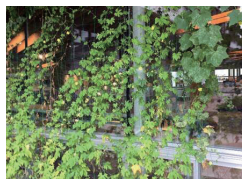
はらしな・さちひこ / 1946年生まれ。東京工業大学理工学部卒。同大大学院理工学研究科博士課程修了。東京工業大学工学部助教授・教授などを経て、同大名誉教授。2012年に本学に着任。政策情報学部長を経て、2017年3月、学長に就任。社会学が専門で、参加と合意形成研究、環境アセスメント研究の第一人者として国内外で広く知られている。

千葉商科大学はこれからも、学生・教職員が一体となって省エネ意識を醸成する活動に取り組んでいきます。

打ち水で涼しく大作戦



グリーンカーテン



令和5年4月発行



# 自然エネルギー100%大学とは

大学で創るエネルギーと使うエネルギーの量を同じに



創エネ・省エネによって、2023年度にはガスを含む全てのエネルギーにおいて日本初の「自然エネルギー100%大学」をめざしています。

## 千葉商科大学の環境への取り組み



- 1号館屋上に太陽光発電設備を設置  
発電した電力で1号館の消費電力の一部を賄っています。
- CO<sub>2</sub>排出量1990年比10%削減を達成

### 政策情報学部「省エネ・創エネプロジェクト」を立ち上げ

メガソーラー野田発電所の2014年度の発電実績が学内電力消費量の77%に相当することがわかり、残り23%を省エネ・創エネすることで野田発電所等の発電量と学内の電力消費量を差し引き0にするネット・ゼロ・エネルギー・キャンパス化への検討を開始しました。



### CUC-ENERGY CUCエネルギー株式会社

代表取締役社長 原科幸彦 (2018年5月就任)  
2016年5月設立。本学に設立された地域エネルギー事業者として、本学の自然エネルギー100%大学達成に向けたエネルギー・サービス事業を展開。今後は地域へ広めていくことをめざしています。

- 2001年 ● 学生有志によるISO14001認証取得 学生委員会発足
- 2002年 ● 学校法人千葉学園 環境方針を制定
- 2003年 ● 千葉県内初、学生主導によるISO14001認証取得
- 2007年 ● 全国の大学初の試みとして、キャンパス内のCO<sub>2</sub>排出量を2010年までに1990年比10%削減する目標を掲げる

- 2010年 ● ISO14001を返上
- 2012年 ● 「CUC公開講座 in 丸の内」スタート  
初年度「持続可能な環境エネルギー政策を考える」
- 2013年 ● 「CUC公開講座 in 丸の内」スタート
- 2014年 ● メガソーラー野田発電所が始動  
地球温暖化対策等の環境保全に貢献するため、大学単体では日本一大きいメガソーラー発電所(太陽光パネル10,032枚、パネル容量約2.45MW)を千葉県野田市の本学所有地に建設し、発電した電気を東京電力に売電する「太陽光発電事業」を開始。
- 2015年 ● 全学的にネット・ゼロ・エネルギー・キャンパス化をめざして活動を開始  
学部プロジェクトから全学的なプロジェクトとして正式に発足。節電週間アクションとして「打ち水で涼しく大作戦」を実施。
- 2016年 ● CUCエネルギー株式会社設立



### 4/1 「学長プロジェクト」を立ち上げ

政策情報学部長の原科幸彦教授が学長に就任。ネット・ゼロ・エネルギー・キャンパス化に向けた取り組みは、本学を地域分散型エネルギー社会形成の核とするため、学長の強いリーダーシップのもと、「学長プロジェクト4:環境・エネルギー」の取り組みとして継承されました。

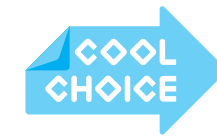
### 日本初 11/13 「自然エネルギー100%大学」にすることを国内外へ向けて宣言



### 11/13 自然エネルギー100%プラットフォームに登録される

自然エネルギー100%の実現を提唱する世界的なイニシアチブ「自然エネルギー100%プラットフォーム」(運営:CAN-Japan)に教育機関として初めて本学の宣言が登録されました。

### 12/9 環境省「COOL CHOICE LEADERS AWARD」で優秀賞を受賞



2017年

### 学生団体SONE

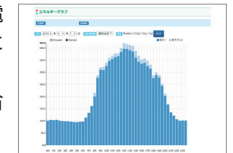
Student Organization for Natural Energy: 自然エネルギー達成学生機構

学生目線で省エネや地球温暖化防止への取り組みを考え、大学とともに活動する学生団体。企画・実施や大学への提言などを通じて、学内電力消費量の削減をめざしています。



2018年

- 3月 学生団体SONE発足
- 2017年8月～2018年2月 メガソーラー野田発電所のパネル増設  
太陽光パネル計11,642枚、パネル容量は約2.88MWに。
- 2017年9月～2018年2月 市川キャンパスの照明LED化工事完了
- 2017年9月～2018年2月 EMS(エネルギーマネジメントシステム)導入  
エネルギーの見える化により、発電量の管理や電力使用状況を適切に把握・管理することが可能になり、消費エネルギーデータの分析を省エネ活動につなげています。



### 2018年度環境目標

発電量と消費電力量を同量に =RE100大学

2019年

- 2018年10月～2019年2月 市川キャンパスのパネル増設  
1号館屋上と合わせ計1,430枚、パネル容量は約460kWに。

### 2020年度環境目標

発電量と消費エネルギー量を同量に =自然エネルギー100%大学

### 達成イメージ

	消費	消費電力量	消費ガス量
取組み前	消費	消費電力量	消費ガス量
創エネ	創エネ	太陽光発電量(野田・1号館)	
2018年度	消費	消費電力量	照明LED化で削減
創エネ	創エネ	太陽光発電量(野田・1号館)	野田発電所増設
2020年度	消費	総消費エネルギー(電力+ガス)	屋外LED化 EMS導入・省エネ活動
創エネ	創エネ	太陽光発電量(野田・1号館)	野田発電所増設 市川キャンパス内屋上太陽光増設

※年度：4月～翌3月末



2019年からは  
さらに多彩な  
活動を実施!

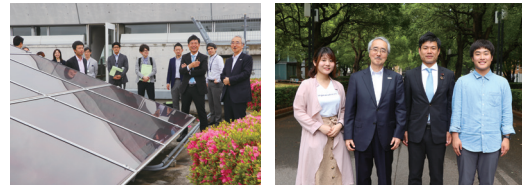
- 市川キャンパス内10棟の屋上に  
太陽光パネルを増設し、全量自家消費に



- 2/27 日本初、電力での  
「自然エネルギー100%大学」の達成を、  
日本記者クラブにて発表

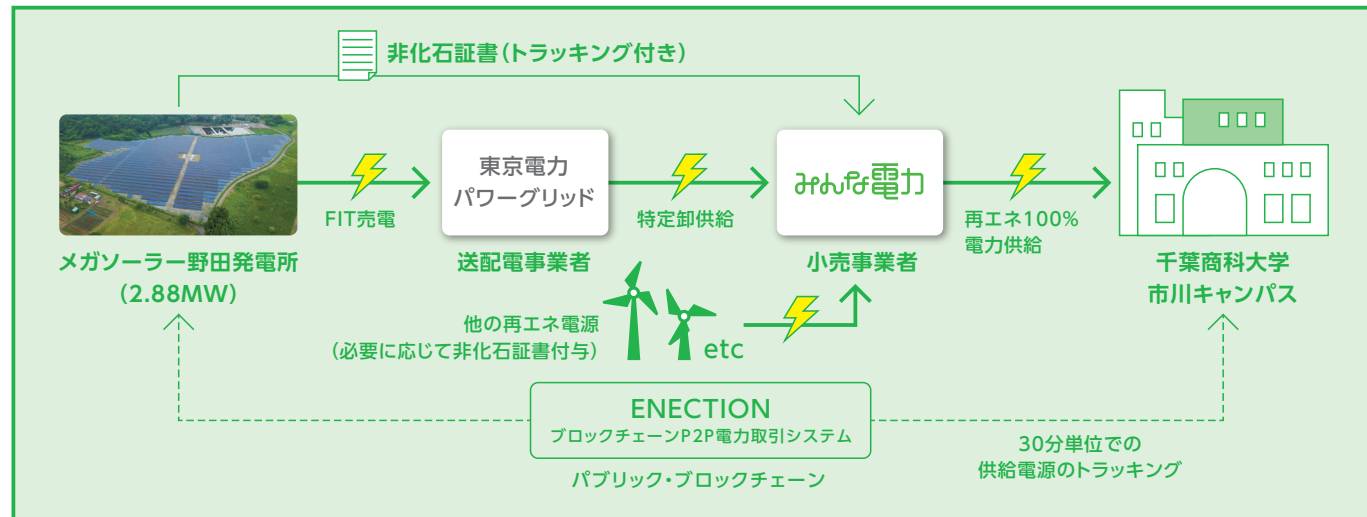


- 5/29 環境省の勝俣孝明政務官が本学を視察  
ソーラーシェアリングによるぶどう畑や太陽光パネルなどを  
見学されるとともに、学生との意見交換も行われました。



- 8/1 電力調達も再エネ100%に

メガソーラー野田発電所の発電分を、売り先のみんな電力から非化石証書を付して買い戻し、  
市川キャンパス内の屋上太陽光発電と合わせ電力調達も再エネ100%を達成しました。



・メガソーラー野田発電所のFIT電気を東京電力パワーグリッドを通じて、みんな電力に特定卸供給。  
・みんな電力のブロックチェーンP2P電力トレーサビリティシステムを利用することで、メガソーラー野田発電所のFIT電気を、本市市川キャンパスに供給することが証明可能になる。  
電力の不足分は、他のFIT電気や再生可能エネルギー電力(風力、バイオマス等)により補充し、さらに、トラッキング付き非化石証書により、再生可能エネルギー利用率100%を実現する。

2019年  
1月

SDGs12: つくる責任・つかう責任  
**再エネ発電量と  
消費電力を同量に  
=RE100大学** **達成**

以下、水色の●印のある表記は「学生団体SONE」  
または「CUC100ワイン・プロジェクト」の学生活動です。  
大学とともに省エネやソーラーシェアリングに取り組む学生が、  
積極的な活動を行っています。

3月

- 3/5 CUC100ワイン・プロジェクト  
ぶどう作り開始

キャンパス内でソーラーシェアリングをしながらぶどうを育て、市川市産のCUCオリジナルワイン造りをめざす活動がスタート。着手式とぶどう苗の植え付けを行いました。



5月

- 6/29  
CUC100ワイン・プロジェクト  
ガーデンパーティー開催

クラウドファンディングで運営資金の一部をご支援くださった方々を招き、ぶどう畑の見学やBBQを行いました。



6月

- 7/15~7/19  
「打ち水で涼しく大作戦」を実施

SONEメンバーに加え、公募により集まった40名を超える学生が打ち水スタッフとして参加。打ち水の効果の検証や省エネに関わるアンケートも実施しました。



8月

- 9/13~9/14 環境科学会2019年會に参加

名古屋大学で行われた環境科学会のシンポジウムにSONEが参加し、他大学の学生も交えた総合討論を行いました。



9月

- 10/9 「再エネ100宣言 RE Action」に  
大学として初めて参加

自治体、教育機関、医療機関や中小企業などが使用電力の再エネ100%化宣言を表明し、ともに行動を示していくイニシアティブに、大学として初めて参加しました。



- 10/20 「エコメッセ2019  
inちば」にSONEが出席



- 10/26 SONEが「CUC公開講座  
in丸の内」で講演



- 激化する気候変動に対する  
緊急メッセージ

地球環境が危機的状況であることを認識し、気候変動対策を積極的に研究・実践し、SDGsの目標達成に貢献するメッセージを発出しました。

10月

- 12/2 「第22回令和元年度  
地球温暖化防止活動 環境大臣表彰」  
環境教育活動部門 受賞

環境教育活動部門において、本学の取り組みが地球温暖化防止に対する功績として評価されました。



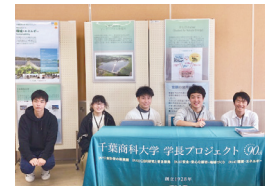
11月

- 11/3~11/4  
第70回瑞穂祭(学園祭)に参加

学生団体SONEとして初めて学園祭に出店し、薩摩芋スティックの販売と「ソーラー蓄電くん」の宣伝を行いました。



- 11/24  
「第16回環境高校生サミット」に  
SONEがパネル出席



- 12/2 「今こそ教育現場から気候変動対策を!  
RE Action For Teachers」でスピーチ

気候変動問題について教育業界が果たす役割を考えるシンポジウムで、SONEの学生がスピーチを行いました。

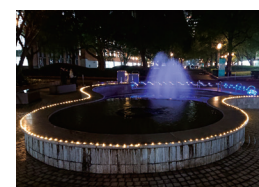


- 12/5~12/7 エコプロ2019に  
SONEが出席



- 12/16~12/20 太陽光発電による  
学内イルミネーションをSONEが実施

昼間に蓄電した太陽光電気を使い、クリスマス間近の学内を彩りました。





2020年以降も  
引き続き  
活動中!

● 1/10 2020 Asia-Pacific Triple E Awards  
初代「Green University of the Year」  
受賞

ACEEU (Accreditation Council for Entrepreneurial and Engaged Universities) がアジア太平洋地域の高等教育機関や個人をたたえる表彰で、環境保護に対する活動が評価されました。



● 1/29 一般財団法人 省エネルギーセンター  
「2019年度省エネ大賞  
省エネ事例部門審査委員会特別賞」受賞

省エネ活動に取り組んだ功績が認められ、教育機関として2019年度唯一の受賞となりました。



2020年  
1月

● 3/23 国際的な「気候非常事態宣言」に  
日本の大学として初署名

環境問題に取り組む高等教育機関の国際的な3機関<sup>※</sup>が発出した気候非常事態宣言の文書 (Higher and Further Education Institutions across the globe declare Climate Emergency) に、日本の大学として初めて署名しました。

※ Eauc (Environmental Association for Universities and Colleges) (大学環境協会、イギリス)、高等教育気候行動推進団体 [Second Nature] (アメリカ)、国連 UNEP (United Nations Environment Programme (国連環境計画) の「Youth and Education Alliance」)

● 7/6 地方創生SDGs官民連携プラットフォームへ加入

内閣府による、SDGsの国内実施を促進し、より一層の地方創生につなげることを目的に、広範なステークホルダーとのパートナーシップを深める官民連携の場として設置されたプラットフォームに加入しました。



私たちは持続可能な開発目標 (SDGs) を支援しています。

● 7/29 環境目標達成年度を2023年度に変更

新型コロナウイルス感染拡大防止の各種対応の結果、キャンパスの消費エネルギー量が大幅に減少。2019年7月～2020年6月の自然エネルギー率(電気+ガス)が102.9%となり、2020年度環境目標「千葉商科大学をネットで日本初の「自然エネルギー100%大学」にする」を実測上達成しました。しかしながら、これは新型コロナウイルスの流行による異常事態の結果であり、当面はこの状況が続くと予想されることから、合理的で公正な判断を行うため、今後2年間で目標達成の評価から除き、環境目標の達成年度を2020年度から2023年度に変更しました。

環境目標

再エネ発電量<sup>※1</sup>と  
消費エネルギー量<sup>※2</sup>を同量に  
=自然エネルギー100%大学  
目標達成時期を2020年度→2023年度に

※1 本学所有のメガソーラー野田発電所等の発電量  
※2 千葉商科大学の総消費エネルギー量(電気+ガス)

3月

6月

7月

● 6/12 令和2年版環境白書・  
循環型社会白書・  
生物多様性白書に  
本学の取り組みが掲載



● 7/31 株式会社大川印刷主催  
「NO MORE! SDGs ウォッシュ vol.4  
腕より始めよ。RE100%大学と企業ここにあり」  
イベント登壇(オンライン)

「環境印刷」を推進する株式会社大川印刷が主催するオンラインイベントに参加し、省エネ推進活動など学生が自らの取り組みを語りました。



8月

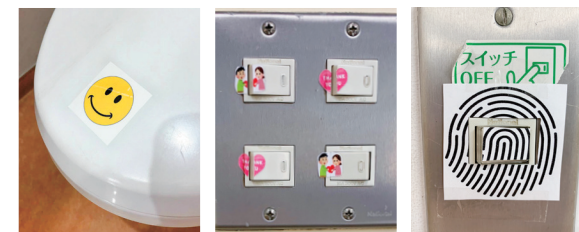
● 8/3 RE-User (自然エネルギーユーザー企業ネットワーク) による、  
自然エネルギー拡大に向けた提言に全国の学校として初めて賛同

日本が自然エネルギーの電力を利用しやすい国になることをめざした政府と電気事業者に対する提言に、全国の学校として初めて賛同しました。



● 11/1 エコメッセ in ちば2020で  
開催された  
「SDGsユース会議」に  
SONEが登壇

● SONEが市川キャンパス内で「仕掛学」を利用した  
省エネ行動を誘うプロジェクトを実施



● 1/26 一般財団法人新エネルギー財団  
「令和2年度新エネ大賞 導入活動部門  
新エネルギー財団会長賞」受賞

先導的な事例として新エネルギー等の普及促進に大きな役割を果たすものとして認められました。



新エネ大賞  
新エネルギー財団会長賞 自然エネルギー100%大学(電力)の達成

● 3/23 カーボン・ニュートラル達成に向けた  
大学等の貢献に係る学長等サミットに登壇  
(オンライン)

2050年カーボン・ニュートラル達成に貢献する大学等コアリション立ち上げに向け、参加予定大学の学長等が一堂に会するサミットに参加しました。



10月

11月

● 10/5 国連大学SDG大学連携プラットフォームへ加入

SDGsを軸に、国内の大学の連携を強化し、ステークホルダーとの協働を通して国際社会における日本の大学の存在感を高め、日本および世界の持続可能な発展に貢献することをめざすプラットフォームに加入しました。



● 10月～12月  
自然エネルギー100%大学の  
実現に向けた連続セミナーを  
開催(オンライン)

全国の大学関係者等に向けて、自然エネルギー100%を達成した本学の取り組み内容や、これまでの経緯、達成のノウハウをさまざまな角度から公開、共有しました。



12月

● 市川キャンパス内の一部教室の二重窓化による  
効果測定調査をSONEが実施



2021年  
1月

● 12/13 企画セッション「自然エネルギー100%大学の  
多面的な意義」を開催(オンライン)

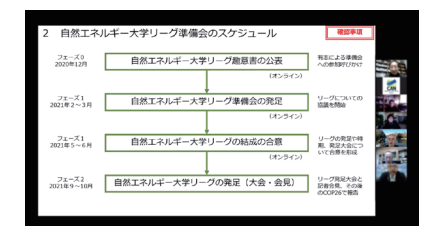
環境情報科学センターが主催した2020年度環境情報科学研究発表大会にて、大学のエネルギーを自然エネルギー化することの意義について多面的に考察しました。



2月

● 2/28 自然エネルギー大学リーグ準備会発足

自然エネルギー100%をめざす大学を増やし、大学活動に伴う環境負荷を抑制することを目的とした「自然エネルギー大学リーグ」設立のため、本学を含め5つの大学の学長が世話人となって第1回準備会を開催しました。



3月



2021年  
4月

● 「パリ協定を実現する野心的な2030年目標を  
日本政府に求めるJCIメッセージ」に賛同を表明

本学が2018年9月より参加している気候変動イニシアティブ(JCI:Japan Climate Initiative)は、気候変動対策に積極的な企業や自治体、NGOなどが互いに連携し、取り組みを強化するネットワークです。そのJCIが発表したメッセージに対して、賛同を表明しました。

5月

● SONEが東邦大学と共同で企業へ  
環境活動を提案・実施

東邦大学で省エネ活動を推進する学生団体「東邦エコリユーション」と共同し、企業に環境活動を呼びかける「エコレーティングプロジェクト」を実施。株式会社イシド様へ企画を提案し、環境チェックシートを通じて子どもたちの環境意識を高める活動を実施しました。

6月

● 6/7 原科学長が代表世話人を務める「自然エネルギー大学リーグ」発足

日本国内の大学が集まり、自然エネルギーの活用等を通じて大学活動に伴う環境負荷を抑制し、脱炭素化をめざす「自然エネルギー大学リーグ」を設立しました。



自然エネルギー大学リーグ  
RENEWABLE ENERGY UNIVERSITY LEAGUE OF JAPAN

自然エネルギー大学リーグ

日本国内の大学組織ならびに大学の教職員・学生および知見を有する関係者等が、知見の共有、ネットワーク化、相互研鑽、人材育成、海外大学との交流を通じて、各大学における自然エネルギーの活用等を促進し、自然エネルギー100%をめざす大学を増やすために、その設立趣意を国内外に広く呼びかけています。

大学リーグ  
Webサイト



会 員

キャンパス会員(10大学)

- ・足利大学
- ・上智大学
- ・千葉商科大学 市川キャンパス
- ・千葉大学
- ・東京外国語大学
- ・長野県立大学
- ・名古屋大学
- ・広島大学
- ・立命館大学
- ・和洋女子大学

支援団体会員(8社)

- ・Envision Digital Japan株式会社
- ・株式会社E-konzal
- ・株式会社WELLNEST HOME
- ・株式会社Yanekara
- ・清水建設株式会社
- ・パタゴニア日本支社
- ・パナソニック株式会社
- ・みんな電力株式会社

(2022年3月末時点/50音順)

自然エネルギー大学リーグ 設立メンバー(世話人会)

代表世話人

原科幸彦(千葉商科大学学長)

世話人

- 岩切正一郎(国際基督教大学学長)
- 岸田宏司(和洋女子大学学長)
- 高祖敏明(聖心女子大学学長)
- 林佳世子(東京外国語大学学長)

- 金田一真澄(長野県立大学学長)
- 陣道佳明(上智大学学長)
- 越智光夫(広島大学学長)
- 田中雄二郎(東京医科歯科大学学長)

● 6/25 原科学長が「国連エネルギー・ハイレベル対話閣僚会合」サイドイベントで基調講演を実施(オンライン)

[Ministerial Thematic Forums for the High-level Dialogue on Energy]のサイドイベントとして開催された、国連経済社会局による「Accelerating Multi-Stakeholder Action in Japan Towards the Achievement of Net-Zero Emissions and the SDGs」で、原科幸彦学長が「大学からのエネルギー改革:自然エネルギー大学リーグの設立と2050年脱炭素社会への貢献(Sustainable Energy Revolution from Universities:An Initiative of the first RE100 University in Japan)」と題した基調講演を行いました。

● 7/5~7/9 SONEが「打ち水で涼しく大作戦 in 2021」を開催

昔ながらの打ち水で、クーラーに頼らない涼しさを実感し、省エネ意識の醸成と節電行動を促進するイベントを実施しました。



● 7/21 テレビ朝日「報道ステーション」で、  
本学の取り組みについて紹介

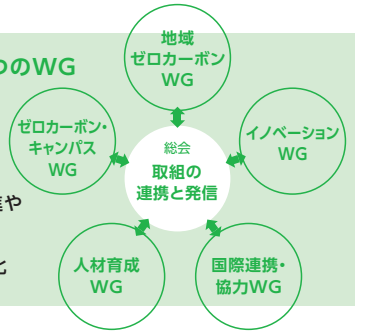
原科学長がテレビ朝日「報道ステーション」より、本学の取り組みなどについて取材を受けました。

● 7/29 「カーボンニュートラル達成に貢献する  
大学等コアリション」に参画

カーボン・ニュートラルの実現に向けた取組を大学等から地域、国、世界へと展開させ、発信を通じて社会の在り方等により良い変化をもたらすことを目的として、文部科学省・環境省・経済産業省が2021年7月に設立したプラットフォームに参画。現在191の大学等が参加しており、千葉商科大学は5つのWG(ワーキンググループ)で構成されるWG別担当委員会において、「ゼロカーボン・キャンパスWG」に所属しています。

コアリションの目的と5つのWG  
(ワーキンググループ)

- 1 大学等の知見の横展開
- 2 自治体・企業等との連携強化による研究推進や研究成果の社会実装
- 3 国内外への発信力の強化



7月

● 6/15 平田仁子特別客員准教授が  
ゴールドマン環境賞を受賞

石炭火力発電の廃止に取り組む本学の平田仁子特別客員准教授が「環境NGO活動のノーベル賞」とも称されるゴールドマン環境賞を受賞。日本人の受賞者としては23年ぶりの3人目、日本人女性としては初の受賞となります。



7月4日に開催された受賞シンポジウムでは、アル・ゴア米元副大統領やアヒム・シュタイナー国連開発計画総裁、小泉進次郎環境大臣(当時)など、国内外の環境リーダーがビデオメッセージで平田氏の活動を賞賛しました。その後は平田氏が「日本の市民社会とNGO」「気候変動に取り組む上での石炭問題の重要性」という2つのテーマで講演を行いました。さらに有識者を交えたパネルディスカッションも催されました。



8月

● 8/7 「NHK WORLD-JAPAN」で、本学の  
自然エネルギー100%大学への取り組みについて紹介

原科学長が「NHK WORLD-JAPAN」より、本学の自然エネルギー100%大学達成までの道のりなどについて取材を受けました。

● 8/12 自然エネルギー大学リーグ  
第1回定例セミナー開催(オンライン)

原科学長が「自然エネルギー大学リーグの設立」について講演し、他の登壇者とともに大学における自然エネルギーの活用・脱炭素化等に関する情報共有や意見交換を行いました。



● 8/20 CUC公開講座2021第4回  
「自然エネルギーを通じた地域価値の創造」開催(オンライン)

公開講座2021第4回として、本学が自然エネルギーを通じてどのように地域価値を創造しているか、「組織」「研究」「学生」という3つの側面から報告しました。また、ゲストコメンテーターとしてSDGsに通じた外部有識者をお招きしました。



・特別報告「自然エネルギー大学リーグの設立」

原科幸彦(千葉商科大学学長)

・報告1「自然エネルギーが生み出す地域付加価値とは」

中山琢夫(千葉商科大学基盤教育機構専任講師(当時))

・報告2「千葉商科大学の学生による地域での環境活動」

手嶋進(千葉商科大学基盤教育機構准教授/学長PJ4 リーダー)  
水出翔(千葉商科大学商経学部経済学科 2年(当時)/学生団体SONE)

・パネルディスカッション

星野智子(一般社団法人環境パートナーシップ会議副代表理事)  
原科幸彦(千葉商科大学学長)  
中山琢夫(千葉商科大学基盤教育機構専任講師(当時))  
手嶋進(千葉商科大学基盤教育機構准教授/学長PJ4 リーダー)  
水出翔(千葉商科大学商経学部経済学科 2年(当時)/学生団体SONE)  
【進行】田中信一郎(千葉商科大学基盤教育機構准教授/学長PJ4 サブリーダー)



● 9/10~9/11  
SONEが環境科学会で発表(オンライン)

Web開催された環境科学会2021年会の企画シンポジウム「学生によるSDGs活動の地域での認知拡大と深化」において、「遠隔状況下におけるSDGs活動の展開」と題して学生団体SONEが発表しました。

● Race To Zeroのキャンペーン公式パートナー  
「Race to Zero Circle」に加入

Race To Zeroは、国連気候変動枠組条約(UNFCCC)事務局が主催する国際キャンペーンで、世界の企業や自治体、投資家、大学などの非政府アクターを対象に、2050年までに温室効果ガス排出量実質ゼロを達成するための行動を呼びかけるものです。  
本学は、気候変動イニシアティブ(JCI)を通じてRace To Zeroのキャンペーン公式パートナーであるJCIのメンバーサークル「Race To Zero Circle(レース・トゥ・ゼロ・サークル)」に加入しました。JCIは世界の脱炭素化に日本から貢献するために活動している団体で、本学も加入しています。

9月

10月

● 10/12 Alliance for Climate Action,  
"Your Path To Impact in the Race to Zero"  
(How Universities & Colleges Can Lead on Climate and Transform our Collective Future)にて原科学長が講演



● 10/13 気候変動イニシアティブ  
「気候変動アクション日本サミット」にて原科学長が講演



● 10/16~10/17  
SONEが「エコメッセinちば2021」にオンラインで参加

千葉県最大の環境活動見本市「エコメッセinちば」にて、SDGsの開発目標12の達成に向けた活動として、自然エネルギー100%大学をめざす大学と学生の取り組みについて発表しました。



● 10/19 「大丸有SDGs ACT5オンラインセミナー  
『自分の暮らしやビジネスに再生可能エネルギーを選ぶ』にて、  
原科学長が講演

大手町・丸の内・有楽町地区の「大丸有エリア」を起点にSDGs達成に向けた活動を推進する「大丸有SDGs ACT5」。丸の内サテライトキャンパスを持つ本学は、大丸有SDGs ACT5実行委員会が主催するオンラインセミナーにおいて、原科学長がプロシューマーとして学内での再生可能エネルギーに関する取り組みの紹介と推進の意義について講演を行いました。

● 11/22  
愛媛日経懇話会にて「SDGsへの大学の役割と  
自然エネルギー大学リーグ」について  
原科学長が講演

全国の各地域を代表する経済、産業、行政、学術など各界のリーダーの方々が会員制で集い、自己研鑽する「日経懇話会」。愛媛での例会にて、原科学長が講演を行いました。

● 2021年11月~2022年3月  
学内建物に蓄電池設備の導入を発表

2022年2月から学内の建物に蓄電池設備を導入し、屋上太陽光発電による電気を災害時等の非常電源として活用できるようにすると発表しました。

11月

12月

● 12/8~12/10  
「エコプロ2021」に出展

社会課題解決のための製品やサービス、取り組みが集結する「エコプロ」に、学長プロジェクトとして出展。大学の取り組みを発信しました。

● 12/25~12/26  
「第7回 全国高校生  
環境スピーチコンテスト  
~コロナ禍のもとで考える~」を実施  
(オンライン)

環境に関心のある高校生を対象に「自然エネルギーと私たちの未来」[SDGsのために、今、私たちができること]という2つのテーマでスピーチ原稿を募集。厳正なる審査にて選ばれた11名が本選に出場し、スピーチ動画およびオンラインでの質疑応答によって受賞者を決定しました。



● 10/19  
NHKラジオ「NHKジャーナル」で、  
本学の自然エネルギー100%大学への  
取り組みについて紹介

原科学長がNHKラジオ「NHKジャーナル」より、本学の自然エネルギー100%大学達成やSDGsに関する取り組みについて取材を受けました。

● 1/21 CUC公開講座2021第8回  
「ゼロカーボン社会を担う人材の育成」開催  
(対面+オンライン)

公開講座2021第8回として、国と大学の連携における取り組みや、先進企業における人材育成の取り組み、ならびに本学における人材育成の取り組みについて報告し、参加者を含めたパネルディスカッションで議論を深めました。

2022年  
1月

● 12/9  
SONEが長野県上田高等学校で開催された  
「断熱DIYワークショップ」に参加

環境問題に取り組む上田高校にて、教室の断熱改修ワークショップに参加。高校生が自ら壁や窓の高断熱化に取り組む様子を見て、学生も大学で実施したいと意欲を高めました。



● 12/20~12/24  
太陽光発電による学内イルミネーション企画を  
SONEが実施

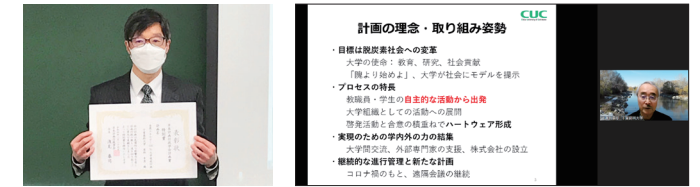
太陽光パネルで発電した電気を蓄電し、クリスマスのイルミネーションを点灯。ツリーは学内のペットボトルを再利用しました。



● 12/29  
カーボン・ニュートラル達成に貢献する大学等コアリション  
「ゼロ・カーボンキャンパス WG」の勉強会にて、  
千葉商科大学の事例紹介を実施(オンライン)

● 2/25 一般社団法人 日本計画行政学会「第19回計画賞」特別賞受賞

本学での脱炭素社会実現に向けた自然エネルギー100%の取り組みが先進的であるという点、ハードウェア・ソフトウェア・ハートウェアという3本柱でCUCエネルギー株式会社を設立し、独自の取り組みを行っている点などが評価され、特別賞の受賞となりました。「計画賞」は、日本計画行政学会が環境問題や長寿化、情報化など新たな社会ニーズに応える革新的で先導的な計画を発掘し、これを表彰することを目的として創設された賞です。



2月

3月

● 3/12 「全国学生SDGsフォーラムinちば」で  
SONEが発表

NPO法人環境パートナーシップちばと、学生団体おりがみが共催する「全国学生SDGsフォーラムinちば」にSONEが登壇。日頃の活動について報告しました。



● 3/31 学長プロジェクト書籍「SDGsと大学  
-自然エネルギー100%大学の挑戦-」発行

2017年にスタートし、教職員と学生が学部を超えて全学的に取り組んできた学長プロジェクト。その研究活動・成果をまとめた書籍を発行しました。



環境目標達成状況

2021年1月~12月の  
自然エネルギー率 **電気 138.4%** **電気・ガス 112.8%**

※自然エネルギー率:創出エネルギー量を消費エネルギー量で割った値(小数点第二位以下を切り捨て)  
※新型コロナウイルス感染拡大防止の各種対応の結果、キャンパスの消費エネルギー量が大幅に減少し、本学の環境目標2が実測上は達成となっています。しかしながら、これは新型コロナウイルスの流行による異常事態の結果であることから、環境目標2の達成年度を2023年度としています。





2022年  
4月

- 4/1 「環境カオリスト検定公式テキスト」で、  
本学の「創エネルギー・省エネルギー」について紹介

原科学長が「創エネルギー・省エネルギー」について本学の事例を紹介し、自然エネルギーの取り入れ方のアドバイスが掲載されました。

- 4/8 ダイヤモンド社「ダイヤモンド・オンライン」で、  
気候非常事態宣言 (CED) を発した大学の1校として紹介

- 4/13 日本私立大学協会「教育学術新聞」で、  
本学の環境・エネルギー問題への取り組みについて紹介

原科学長による本学の環境・エネルギー問題への取り組み等について、掲載されました。

5月

- 5/30 SONEが  
日本テレビ「news every.」で、  
本学の再生可能エネルギーの  
取り組みについて紹介

原科学長と学生団体SONEが、本学の再生可能エネルギーの取り組みについて紹介するために番組へ出演しました。

6月

- 6/16 自然エネルギー大学リーグ設立  
一周年記念セミナーを実施(オンライン)

2021年6月7日に発足した「自然エネルギー大学リーグ」について、設立一周年を記念したセミナーを開催し、代表世話人である原科学長がパネリストとして参加。「総合大学の自然エネルギー化・脱炭素化をどうするか?」についてディスカッションしました。



7月

## ● 7/7 世界の大学を対象とした国際賞を受賞 国連環境計画 (UNEP) が共催 「International Green Gown Awards 2022 “2030 Climate Action” 部門」で受賞

本学の自然エネルギー100%大学の取り組みが、International Green Gown Awards 2022の「2030 Climate Action部門」で“Winner” (優勝) に選出され、初代受賞者になりました。この賞は国連環境計画 (UNEP)、コモンウェルス大学協会 (ACU)、フランコフォニー国際機関 (AUF)、国際大学協会 (IAU)、高等教育サステナビリティ・イニシアティブ (HESI) の共催で実施され、全世界の大学の優れた持続可能性社会の実現に向けたアイデアに贈られるものです。International Green Gown Awards 2022では世界19カ国から計56校が6つの部門でファイナリストとして選ばれていますが、日本からの受賞は本学のみとなります。



8月

- 8/26 CUC公開講座2022第4回  
「脱炭素キャンパスをどうやってつくるのか?」  
開催 (対面+オンライン)

公開講座2022第4回として、外部講師を招き、ドイツのプラスエネルギー小学校の事例と日本全国の大学で連携して取り組んでいる事例を報告。本学で8月31日~9月1日の両日に実施された「断熱改修ワークショップ」についても、企画した学生団体SONEが報告を行いました。



9月

- 9/8~9/9  
環境科学会で発表 (対面+オンライン)

環境科学会2022年次会において、原科学長が「自然エネルギー大学リーグによる脱炭素化の推進」について発表し、手嶋進准教授・杉本卓也教授が、企画シンポジウム「PBLとしてのSDGs活動:継続的な活動による能力開発の評価手法の検討」において、「教室断熱化ワークショップの企画運営によるサステナビリティ人材としての育成」について発表。学生団体SONEも断熱改修ワークショップについて発表しました。

- 9/25 NHK総合「1.5℃の約束  
いますぐ動こう、気温上昇を止めるために」  
で、本学の再生可能エネルギー100%の  
取り組みについて紹介

本学の再生可能エネルギー100%の取り組みについて紹介され、原科学長がコメントしました。

10月

- 8/31~9/1 SONEが主体となって  
「断熱改修ワークショップ」を実施

2021年12月に長野県で開催された断熱DIYワークショップを視察したことをきっかけに、本学での断熱実施の可能性を探り、大学へ提案。株式会社エネルギーまちづくり社と本学卒業生が経営する株式会社群森工務店の協力を得て、教室を断熱改修するワークショップを実現しました。



11月

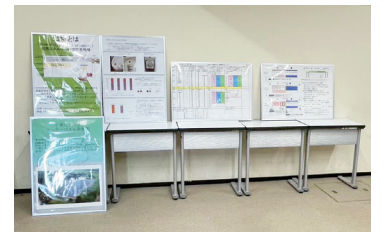
- 11/11 関西エリア私立大学法人10大学が本学を視察

「自然エネルギー100%大学」をはじめとする本学の環境問題への取り組みを視察するため、本学も参画している「カーボンニュートラル達成に貢献する大学等コアリション」に同じく参画している関西エリア私立大学法人の施設部門担当者ら30名が来校しました。当日は原科学長より本学の取り組みについての概要説明があり、具体的な施策を担当教職員が説明。その後、太陽光パネルなど学内施設の見学を実施しました。



- 10/29~10/30  
SONEが第72回瑞穂祭へ出展

本学の学園祭において、断熱改修ワークショップの成果について展示しました。



- 11/13 SONEが「ココカラ未来! 地球学校inちば」に出展

体験・発見を通してSDGsが分かる体験型イベントに学生団体SONEが出展。一般社団法人ガールスカウト千葉県連盟が主催するこのイベントは、「明日をつくる 地球をつくる 子どもがつくる」というテーマのもと、未来の担い手である子どもたちがSDGsについて学び、未来に向けた行動を続けていこうと宣言する「SDGsマイスター」になることをめざすもので、学生は子どもたちの応援団として参加しました。





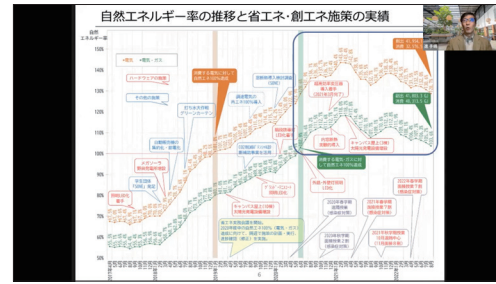
● 11/19 SONEが「NPO法人いちかわ電力コミュニティ 第2回オンラインセミナー」で講演

「自然エネルギー100%大学」のトップランナーとして、本学が実施している活動について、学生団体SONEが講師を務めました。



● 11/25 「リネットちば第8回オンライン勉強会」で講演

「自然エネルギー100%大学への取り組み～自然エネルギー大学リーグへ～」をテーマに、手嶋進准教授が講演しました。



11月

12月

● 12/1～12/2

「第8回全国高校生 環境スピーチコンテスト」を実施

環境問題に関心のある高校生を対象に、「自然エネルギーと私たちの未来」「SDGsのために、今、私たちができること」という2つのテーマでスピーチ原稿を募集。75件の応募があり、厳正なる審査にて選ばれた11名が本選に出場しました。本選ではスピーチ動画およびオンラインでの質疑応答によって受賞者を決定しました。



● 12/7～12/9 SONEが「エコプロ2022」に出展

東京ビッグサイトにて開催されたエコプロ2022に参加し、これまでの活動内容や成果についてポスター展示を行いました。

● 12/19～12/23 SONEが太陽光発電による 学内イルミネーション企画を実施

太陽光パネルで発電した電気を蓄電池、クリスマスのイルミネーションを企画・実施しました。



● 12/27 SONEが 「千葉県環境基本計画普及啓発セミナー」で発表

千葉県環境政策課主催のセミナー「学生×SDGs～持続可能な地球の未来のために、今できること～」において、学生団体SONEが「省エネと快適さの両立-InSONEtion(教室断熱化ワークショップ)の実施-」について発表し、県内の高校生や他大学の学生との意見交換を行いました。

2023年 1月

● 1/11 SONEがサウジアラビアの大学へ向けた 省エネセミナーに参加

Workshop on Energy Efficiency at University in the Kingdom of Saudi Arabiaにおいて、「Making a 100% renewable energy university」のプレゼンテーションを学長ゼミの学生とともに学生団体SONEが英語で行いました。



● 1/31 SONEが「気候アクションワークショップ」で、断熱改修ワークショップについて発表(オンライン)

気候ネットワークが主催する「気候アクションワークショップ～気候危機を止めるために、私たちにできることを考えよう～」の第2回「学校断熱どうやったらできるの?」において、学生団体SONEが本学で実施した断熱の意義や断熱改修ワークショップの手法について発表しました。



● 2/6 SONEが「千葉商科大学×NHK SDGsインタラクティブ」で発表

学長プロジェクトを中心にSDGsを推進する本学と、NHK・SDGsキャンペーンの一環としてNHK千葉放送局が共催したイベントにSONEが登壇。イベントは本学の学生がSDGsについて考え行動するきっかけをつくることを目的としたもので、SONEは教室の断熱改修などこれまでの成果を発表しました。



● 2/22 SONEがエコルーティングプロジェクトでの 成果発表会を実施(オンライン)

株式会社イシドの生徒に向けて、東邦大学(東邦ecolution)の学生とともに、SDGsすごろくを作成したプロジェクトの成果について発表しました。

● 2/22 SONEがTOKYO MX「堀潤モーニングFLAG」にて、 本学の自然エネルギー100%大学への取り組みを紹介

本学の自然エネルギー100%大学への取り組みについて、原科学長および学生団体SONEが取材を受けました。

2月

3月

● 1/23 SONEがTBSテレビ「ふるさとの未来」で 活動を紹介

学生団体SONEがこれまで実施してきた取り組みについて取材を受けました。

● 1/27 CUC公開講座2022第10回 「脱炭素キャンパスをこうやってつくっている」 開催(対面+オンライン)

公開講座2022第10回として、外部講師を招き、断熱改修ワークショップの考え方や全国の事例、気候変動に対する国際的な取り組みの最前線について報告しました。また、学生団体SONEも、本学で8月31日～9月1日の両日に実施した断熱改修ワークショップの事例について報告しました。



● 3/20～3/21 SONEが 「野辺山営農ソーラー別荘活用プロジェクト ～地域の拠点作りワークショップ～」に参加

全国ご当地エネルギー協会および環境エネルギー政策研究所が主催したワークショップに参加し、営農型ソーラー発電所とその横にある別荘建物を地域の拠点としてどのように地域の方たちと協働・活用するかについて議論しました。



● 3/25 SONEが「2022年度次世代SDGs 実践コンテスト」で優秀賞受賞

環境自治体会議環境政策研究所サステナビリティ人材開発センターとソーシャルアクションカンパニー株式会社が共催した「次世代SDGs実践コンテスト」で、学生団体SONEが「断熱ワークショップの企画運営」について発表し、優秀賞を受賞しました。



環境目標達成状況

2022年1月～12月の 自然エネルギー率

電気 124.5% 電気・ガス 99.9%

※自然エネルギー率:創出エネルギー量を消費エネルギー量で割った値(小数点第二位以下を切り捨て)

